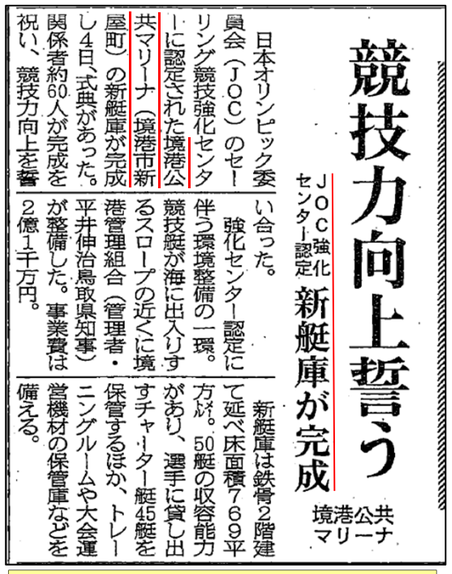
境港公共マリーナの土砂堆積対策について

1　境港公共マリーナの状況

〇弓ヶ浜海岸末端部に位置し、例年漂砂により航路が埋没。
〇航路維持のため、国交省の養浜と連携したサンドリサイクル事業により、毎年浚渫を実施。
〇平成26年2月の関東沖の爆弾低気圧で東よりの強風が続き、航路が埋没、船舶の入出港が困難となった。
〇平成26年3月　日本オリンピック連盟のセーリング強化センターに認定（リオデジャネイロ五輪まで）。
〇平成26年度、既設管理棟の施設改善や係留施設整備（緩衝材）等を行った。
〇平成27年10月　新艇庫が完成し強化センターとしてより一層の機能アップを図った。



競技力向上誓う

JOC強化センター認定　新艇庫が完成

境港公共マリーナ

日本オリンピック委員会（JOC）のセーリング競技強化センターに認定された境港公共マリーナ（境港市新屋町）の新艇庫が完成し4日、式典があった。関係者約60人が完成を祝い、競技力向上を誓い合った。

強化センター認定に伴う環境整備の一環。競技艇が海に出入りするスロープの近くに境港管理組合（管理者・平井伸治鳥取県知事）が整備した。事業費は2億1千万円。

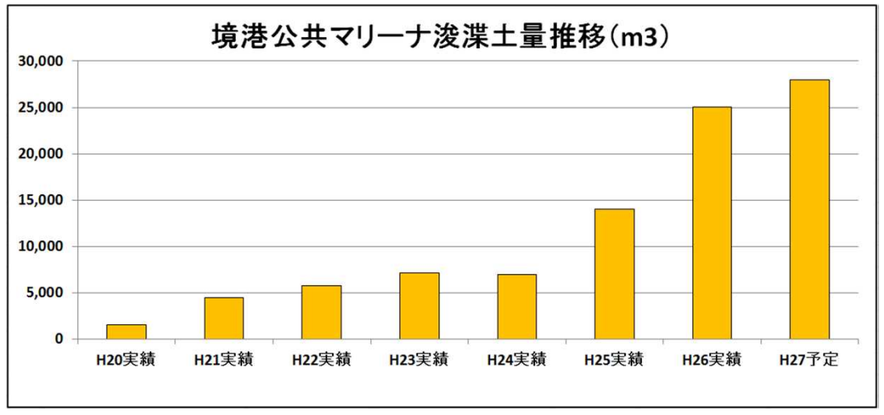
新艇庫は鉄骨2階建て延べ床面積769平方㍍。50艇の収容能力があり、選手に貸し出すチャーター艇45艇を保管するほか、トレーニングルームや大会運営機材の保管庫などを備える。

平成27年10月5日（月）　日本海新聞

2　浚渫土砂量の推移

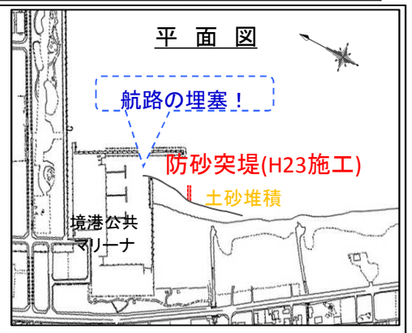
〇弓ヶ浜海岸（米子市夜見、富益地内等）が美保湾を北に向かう沿岸漂砂により浸食され、流末（北側末端部）に位置する境港公共マリーナ付近に堆積し、航路・泊地が埋没している。

〇境港公共マリーナの航路・泊地に堆積した土砂について、境港管理組合が浚渫して陸上げし、国土交通省日野川河川事務所が自らの採取土砂と併せてダンプトラックで運搬、浸食が進む米子市富益地内の弓ヶ浜海岸の浜崖部に養浜するサンドリサイクル事業を実施している。



※H25実績はH26.2月の関東沖の爆弾低気圧による航路埋没に伴う緊急浚渫を含む。

3　これまでの対応状況



鳥取大学と連携し、防砂突堤を整備、その後の土砂堆積の経年変化を観測し、効果を検証。

〇防砂突堤整備（平成23年度）
・突堤の形状：汀線を起点に延長22m、天端幅3m※の捨石式防砂突堤
（平成24年3月完成）

〇調査（平成24年度～平成25年度）
・防砂突堤整備の効果検証の基礎データとするための深浅・汀線測量を実施

〇解析検討（平成25年度）
・防砂突堤整備後の深浅・汀線測量の結果を基に突堤改良に向けたシミュレーションを実施

〇航路埋没対策（平成26年度）
・皆生海岸全体の土砂変動特性を把握、マリーナ周辺の土砂変動要因を分析し、航路埋没対策を立案。

〇マリーナ安全協議会の開催（平成27年度）
・平成27年6月24日に開催した境港公共マリーナ安全協議会（マリーナ関係団体、漁業関係団体、鳥取大学、国交省他）において航路埋没対策案（防砂突堤（案）＋維持浚渫）を説明し、概ねの了承を得た。

4　防砂突堤の効果検証

〇突堤付近の汀線前進
・突堤周辺の汀線が、突堤完成直後（平成23年4月）と比較して前進しており、突堤に砂が堆積していることを確認

〇浚渫回数の減
・防砂突堤整備前（平成23年度）に対して、防砂突堤整備後（平成24年度）の浚渫回数が減少
（平成23年度：4回　→　平成24年度：3回）

〇防砂突堤の埋没
・整備後1年間経過した現状は、突堤のポケットの容量を超える漂砂によって突堤全体が埋没し、航路の閉塞が継続

5　近年の取り組み状況と今後の予定

JOCセーリング強化拠点としての機能確保のため
抜本的な航路の埋没対策の検討が必要

〇平成26年度
（1）堆砂ポケットを設けるため航路・泊地を広範囲に浚渫（2年計画）
（毎年の維持浚渫は最低限の浚渫）
（2）検討結果と実績データを整理、最適案を検討し、関係者との調整を進める。
・実績データに基づく堆砂量の把握
・沿岸・岸沖漂砂量の推定（海浜変形予測の実施）
・防砂施設の配置検討　・抜本的な堆砂対策の最適案の検討

〇平成27年度
（1）航路・泊地の広範囲な浚渫（2年目）　（2）最適案について関係者協議

〇平成28年度以降
・関係機関協議　・最適案に係る調査・設計